

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 みんなの☆職員室【Red】

テーマ 学校の異なる教師チームによる Teams を用いたオンライン教育実践研究

取組のポイント・成果

取組の内容とポイント

- 令和3年度におこなわれた「未来を創る学び共同研究」への参加者有志を母体として、令和4年度参加者・その他繋がりを得た教員で構成する「みんなの☆職員室」は、オンライン(Microsoft Teams 上)で実践研究・実践交流をおこなっている。
- 「みんなの☆職員室」に参加するメンバーのうち、関心のある研究主題に応じてさらに小チームを2チーム立ち上げた。本グループは、そのうち【red】と呼称し、交付申請に記載した活動を計画した。すべて実現できたわけではないが、以下その成果を整理して報告する。

成果

Teams 上の活動について

- ・令和4年度に引き続き、授業実践・校務実践の報告やそれに纏わる意見交流、AI を含めた ICT ツールについての情報交流などをおこなった。
- ・各自が関心を持つテーマについて書籍を用いて知見を高め、その内容について交流したり、新たな課題を見いだして Teams 上で意見を交流した。

【主なスレッド】

ChatGPT に短歌を詠ませたい、ChatGPT の数学 I の問題を解かせたら、Forms と PowerAutomate による職員の急な連絡への対応、授業評価アンケートのシステムを作りたいです、特別活動部のこころみ【評価】、数学Ⅱ数学B@岐山、公共日誌@多治見工業、書籍から学ぶスレッド、ChatGPT_Plus&SunoAI、Suno AI:自動(作詞)作曲 AI

「語り愛ワークショップ」【8/23 ぎふメディアコスモス】

- ・パターン・ランゲージの開発等を主に行っている、慶應義塾大学の井庭崇研究室に所属する柴田爽水氏(慶応大学SFC 政策・メディア研究科 修士課程2年)をお招きして、「みんなの☆職員室」のよさについて語り合うワークショップを実施していただいた。

- (ワーク1) 「みんなの☆職員室」というコミュニティについて、良いと思うところを具体的に1時間以上話す活動
- (ワーク2) ワーク1の話にとらわれず、自分がコミュニティに対して良いと思っている点を3点ポストカードに表現する
- (ワーク3) ワーク2で作成したものをみんなで輪になって発表・共有して愛であう。



参加者の感想より



自分たちの所属するコミュニティの良さを話し合いながら「愛でる」ことを通じて、強みや特性を明らかにする方法を実践していただくことができた。

Kahoot! を用いた授業づくりの検討【夏～】

Kahoot は、教育用 Web サービスで、無料でもクイズを作成できる。ただし、さまざまな形式のクイズを作成するには、有料の契約が必要である。今回、有料の契約をしたところ、図から答えさせる、スライダーで数量を予想させる、多様な意見を出させるなどのクイズや、AI を利用したクイズづくりができるようになった。

以下に、Kahoot! の止揚を試みた結果、見通しの取れた「授業での形成的評価に役立つ利用方法」を述べる。

【授業に Kahoot! を組み込む】

1. 授業後に、教師が生徒に授業の内容を振り返らせ、Forms で問題を作成させて提出させる。
2. 生徒の問題を Kahoot! のテンプレートにコピーし、Kahoot! にインポートする。
3. 授業の最初に生徒の作成した問題を Kahoot! で実施し、形成的評価を日常的・連続的に行う。

【教師による AI を用いた教科書 PDF からの形成的評価用問題の作成】

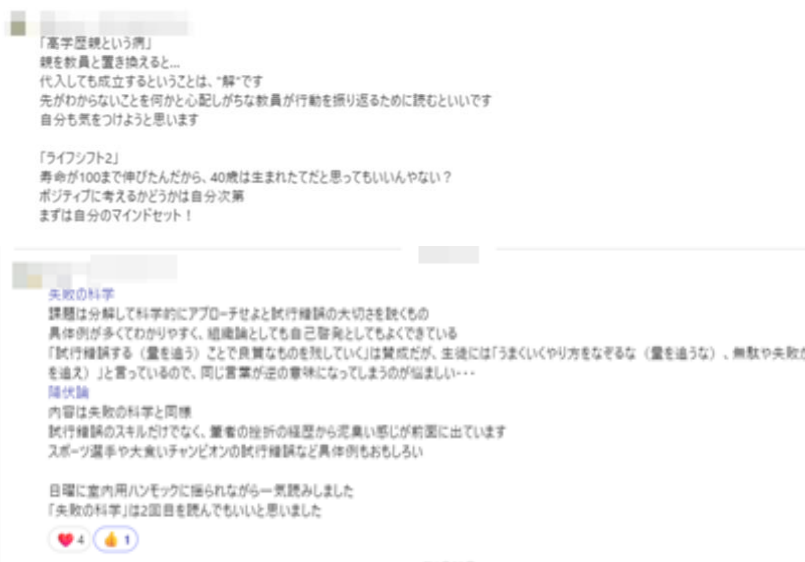
授業で使った教科書やプリントなどの PDF を Kahoot! の AI に読み込ませると、PDF に沿った 4 択問題が作成される。作成された問題はチェックが必要だが、問題作成の精度は高いことが分かった。

SunoAI によるオリジナルソングの作成とその利用【冬～】

ChatGPT や Copilot などの LLM を利用すると、非常に簡単に歌の歌詞を作ることができる。この歌詞を SunoAI に読み込ませると、学校、HR、学校行事などで使える曲・歌入りのオリジナルソングを、簡単に作成できる。生成される曲を選んだり、つなげたりするコツはあるが非常に簡単に音楽を作成できる。また、授業でも、覚えるべき用語などをおぼえ歌にすることができるかもしれないと、様々な用途で研究を進めている。

書籍で得た知見の交流【7月～・1月～】

- ・資料として書籍を購入し、そこで得られた知見や考え方を Teams で通じて共有した。



今後の課題

未来をつくる力を育成するための授業は、言うまでもなく一朝一夕では形にならない。教室での気付きに支えられながら、より良い授業を模索し続けることが大切であり、これを、ネットワークを介して他校の先生方と広く共有することは今後とも重要な研修であると感じる。新たな参加者を歓迎しつつ継続していきたい。

今年度は、国際バカロレア教育について知見を広げる機会を設けられなかった。これを実現させていくことは今後の課題である。また、『Most likely to Succeed』を鑑賞し、その振り返りを通じて公教育のあり方や既存の枠組みで出来ることを模索する機会を持ちたい。